

第2学年 国語科の実践

- 1 単元名 あいての考えを引き出す しつもんをしよう
「あったらいいな、こんなもの」(全7時間 本時4時間目)

2 単元目標

- ・身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。
- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を持つことができる。
- ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題…子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成

手だて…子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ…感じる心、素直に表現する自分

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領のA(1)ア「身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと」及びA(1)エ「話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと」を目標としている。本単元では、自分の生活の経験から、困っていることや不安なこと、面倒だと思うこと、こうだったらいいと思うことを切り口にそれを解決するためにあったらいいものを考える。考えたものを相手に分かるように説明する方法を学習し、相手の説明を聴いて、感想や質問をする活動を行う。相手に分かるように説明することや相手の伝えたいことについて詳しく聴くことは、生活の上で大切なことである。言語活動を楽しみながらも、しっかりと身につけさせていきたい。

〈指導について〉

生活をしている中で、「雨に濡れなければいいのに。」「一瞬で帰れたらいいのに。」「宿題がなければいいのに。」「夕飯や給食に大好きなものが出たらいいのに。」などという「○○だったらいいのに。」という思いは誰でも一度は思い浮かんだことがあるだろう。そんな子どもたちの思いを集めて、「では、それらが解決しそうな、あったらいいものを考えてみよう。」という問いかけをスタートに、あったらいいものを考えていく。本単元ではあったらいいものを絵でも表してみようと思う。

また、自分で考えたあったらいいものをどのように学習のまとめをしていきたいかという問いかけに対して、「だれかに発表したい。」という声が出るのが予想できる。他学年の友だち、クラスや学年の友だち、保護者など発表したい対象は色々だと思うが、学習のゴールを『あったらいいな発表会』とし、そのために詳しく話せる準備を行っていくのが本単元の中心である。

くわしく話すための内容の整理や、質問の仕方については本単元で詳しく指導していきたい。まず、話し手の話す内容の整理のために、あったらいいものの名前・できることなどの項目のあるワークシートを使う。子どもたちにとって、箇条書きのようにメモしたものを話す形にすることが難しいので、話型を意識できるワークシートを使う。次に、動画を活用し、聴き手の質問の仕方を知るとともに、何を質問すればよいかの例を教室に提示しておきたい。さらに、質問の内容は、絵を見る限り目で見えないこと・説明では言っていなかったこととすることで聴き手が集中して聴くようにしたい。

本時で子どもたちが解決したい問題は、友だちのあったらいいものをきいてみようである。本時では、3～4人の小グループでの活動とし、自分の考えた、あったらいいものの説明、聴き手からの質問・感想、聴き手に言われたことをメモする時間をつくる。説明をする中で、考えていなかったことを質問されることが予想される。最後に全体でふりかえりを行う時間をとる。そこでは、想定していなかった質問をされたことなどを取り上げ、質問のおかげで次回までに自分の考えをより詳しく説明ができるように準備する良さを感じながら学習を深めていきたい。

ひびき合いの姿として、話し手は、質問や感想を言ってもらうことにより、自分では考えていなかった内容の部分に気づいたり、自分の考えたものの良さを感じたりする姿・聴き手は、話し手の話に反応しながら聴き、質問や感想を伝える姿をめざしていきたい。

5 単元構想 2年 国語 あいての考えを引き出す しつもんをしよう「あったらいいな こんなもの」(全7時間 本時4時間目)

単元目標 ○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。
 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

困っていること、不安なこと、めんどくさいこと、こうなりたいと思うことってある？

- ・宿題やるのがたいへん
- ・次の日の仕度がめんどくさい
- ・サッカーがうまくなかったらいいのに
- ・雨の日に濡れるのが嫌だ

あったらいいものをかんがえよう①②

- ・宿題がすぐできる鉛筆
- ・明日の仕度をしてくれるランドセル
- ・空中に浮いてくれる傘
- ・ドリブルが早くなるシューズ
- ・空を飛べるかさ
- ・お母さんの手強いマシン
- ・絵も描きたい

教師の考えた「あったらいいもの」も状況を見て参考に提示す

絵が描けるワークシート
説明が書けるワークシート用意

学習の見通し 考えたものをどうしたい？

- ・友だちのを知りたい！
- ・作りたい
- ・だれかに発表したい
- ・1年生に話したい
- ・うちのの人にきいてほしい

- ・一応考えられた
- ・まだ途中だよ

身近なことから想像を広げ、あったらいいと思うもの考えている【主】ワークシート・発言

友だちのあったらいいものをきいてみよう③

- ・質問で何すればいいの？
- ・どんなときに使うの？
- ・だれが使うの？
- ・えーそれ絶対あったらいいじゃん！
- ・どうしよう、そこまで考えついてない
- ・なぜこれがあったらいいと思ったの？

質問のしかた動画(NHK for school えるえる「しりたい!」)で、項目を分けて質問することを抑える。絵からわかることは質問しないことを抑える。
3人×9G+4人×2Gをつくる。

前回とは違う4人×8G+3人×1Gをつくる。

ふりかえり→もうちょっと考える時間ほしいよ

- ・けっこう詳しく話せたかも
- ・説明に入れてなかったけど、けっこう聞かれたから入れたほうがよさそう
- ・ほかの人も聞いてみたい
- ・○○さんの結構いいアイデアだった

友だちのあったらいいものをきいてみよう④(本時)

- ・どれくらいの大きさのものまで運べるの？→家の大きさくらいまでいける
- ・雨が降ったらたしかに便利そう！私もほしいな
- ・でもさ、こういうときはどうするの？
- うわ、そこまでは考えてなかった
- ・自分もほしいわ

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて質問や感想をもつことができる。【思】

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで語彙を豊かにしている【知】ワークシート

ふりかえり時に、困った質問(よい質問)があったかどうか共有する。

ふりかえり

- ・けっこう考えていたけど、こういう場合どうするか考えてなかったからもう少し考えなきゃ
- ・友だちにいい考えだねと言ってもらえたからうれしい
- ・発表するなら絵ももう一回描きたいな

ふりかえり時に、困った質問(よい質問)があったかどうか共有する。

図工で、あったらいいものの絵を描いておく。(画用紙・タブレットどちらか好きなほうを選ぶようにする)

あったらいいな、はっぴょう会のじゅんびをしよう⑤⑥

- ・もうちょっと書き直したいところがあるんだよな
- ・どれから説明しようかな
- ・質問されたことは先に話しておこう
- ・イイね！もらったところはおすすめポイントで話そうかな
- ・絵をかくのがちょっと大変だな、クロームブックでかいちゃダメかな

あったらいいな、はっぴょう会をしよう⑦

- ・すごいアイデアだね！
- ・自分もほしくなりました
- ・○○さんのあったらいいな、がもうちょっと詳しく聞きたいな
- ・家の人にも見せたいな
- ・本当にあったら最高すぎる

聞き方・話し方の確認をしておく。

発表で話す内容を整理する。あったらいいものの絵・なにができるか・どんなときにつかうか・だれがつかうか・おすすめポイント

場や相手に応じた話し方をし、自分のアイデアをしっかりと伝えることができる。【主】

6. 本時について

本時目標

あったらいいものを紹介しあい、聞き手は質問や感想を伝えることができる。話し手は質問されたことに対する答えを考えることができる。

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>めあて：友だちのあったらいいものをきいてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>話す人 グループに聞こえる大きさの声で、聞きやすい速さでさいごまでつたえよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>聞く人 しずかにさいごまで聞く。目で見えないことやせつめいになったことをしつもんしよう。かんそうも OK</p> </div> </div> <p>① しゅっせきばんごうが早い人からじゅんばんに1人5分 (しつもんかんそうを言ってもらったら、ワークシートにメモする)</p> <p>② タイマーがなったらつぎの人</p> <p>ふりかえり こまったしつもんはあったかな？</p> <p>〇〇さんに、大きさを聞かれて、まだきめてなかったなと思った。 〇〇さんにつかい方を聞かれてこまった。 〇〇さんに誰でも使えるか聞いたら、まだ考えていないと言っていた。 〇〇さんにだれがつかうか聞かれて、いっしゅんで考えて何とか答えた。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>しつものこうもく いつつかう？ どこでつかう？ だれがつかう？ どうつかう？ ほかに知りたいこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>こまったしつもんは よいしつもん！ 今日しつもんされた ことに答えられるよ うにして、発表会 のじゅんぴをしよう</p> </div>	<p>◆評価【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを明確にする。ワークシートを準備する。 ・場所の工夫（聞き手と話し手の明確化）より近い話し合いがしやすい環境にするため、ふれあいホールを使用し、椅子の上に絵を乗せて見せながら発表させる。 <p>教師の出どころ</p> <p>質問の仕方に困っているグループには、質問の例を示したり感想を伝えてもよいことを声かけする。</p> <p>◆話し手：伝え合うために必要な事柄を選んでいる。</p> <p>【思判表】</p> <p>◆聞き手：話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて質問や感想をもつことができる。【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がされた質問や自分がした質問について振り返りをする時間をとり、共有する。共有したことを次回以降の発表会準備につなげるように声をかける。

7 実践を終えて

この単元は、子どもたちがあったらいいものを考える単元であるが、今回、あったらいいものをなかなか考えられない子も多いことから、「困っていること」「めんどくさいこと」「こうなったらよいもの」というマイナス要素も含む声掛けをし、それを解消するものというような問いかけであったらよいもの考えた。子どもたちは、考えたものをもとに発表したり、質問されたりを繰り返しながら、ひびき合い、自分のアイデアを改善していった。

成果

① 場の工夫

この単元では、子どもたちが話をしやすいような環境を整えることに力を入れた。質問をし合うグループのメンバーは、子どもたちが話しやすい仲間構成した。また、教室ではほかのグループの声が気になってしまうので、ホールで行うとともに、壁に向けて机を配置することで自分のグループの声が聞き取りやすくした。

② 教具の工夫

子どもたちが発表しやすい形はどれなのか、考えてワークシートを作成した。ワークシートに書くのはたくさんの文章ではなくアイデアを書くことに重点を置いた。また、絵を見せやすいような形にしたり、絵を描く際には手書きまたはクロームブックのお絵かき機能を選べるようにし、子どもが取り組みたい方を選んで行った。

③ 教師の出どころ

聴き手が質問や感想に困ってしまったときに、参考にできるようなヒントカードを作成し、必要に応じて渡したことは有効だったと思う。

課題

① 子どもたちが思い入れのあるものを考えられたか

限られた時間の中で本当に自分が「あったらいいな」と思うものが作れたかどうか難しいところであった。時間数が限られている中で自分の大切なアイデアをもつには、図工の時間などももっと活用しながらできるとよかった。

② めあてと活動量

子どもたちにとって、5分間の質問感想タイムで、自分がされた質問に答えた内容をメモすることは負担だったかと思う。友だちの考えを聴く、自分の考えを話すというめあての中で、メモをすることに一生懸命になってしまっている子どもたちも多く見受けられた。メモはせず、頭の中に残すでもよかったかもしれない。

③ 教師の出どころ

最後のまとめの時間に、子どもたちは各グループでどのような話し合いをしたのか共有する時間があった。そこで、教師が間に入り、どんな質問がきてどのように答えたのかなども共有出来たらよかった。

④ 場の設定

グループの人数を4人として活動したが、ベストで話せる人数は3人ではないかと助言もいただいた。2人でペアトークにするのもよいとのことだったので、7時間目は子どもたちとも相談し、2人でのペアトークで発表した。

8 協議の記録

10/31 「あったらいいな、こんなもの」

話の内容を捉えた上で、答えたり伝えたりすることができる姿

【良い点】
 ・4人の人数は良かった。
 ・発表の順番がスムーズで発表中に話し合い進められる児童が多かった。
 ・時間の管理も大成功！
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。

【課題】
 ・話し手が話の内容を捉えられなかった。
 ・タイムリーな意見を言えなかった。
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。
 ・お金の話、いろいろな意見が出てきた。

手立て
 ・数字が見えないタイマーの利用。
 ・場の設定→防災頭巾などで座ることをきめておく。
 ・本時では、「しっかりと聞き」、「答える」を重点的に。
 ・ふりかえりの時間に子どもたちの言葉で書くと、さらにひびき合えるのでは。

ひびき合い

10/31 国語科「あったらいいな、こんなもの」

聞き手は話し手の話を最後まで受け止め、質問や感想を伝える姿
 ・話し手は自分の考えたものの良さを感じたり、考えていなかった部分に気付いたりする姿

【良かった点】
 ・質問の仕方、感想の例が提示されていた。
 ・交流の時間の教師の子どもたちへの関わり方は良かった。
 ・付箋があったことで、前回の質問と絡めて詳しく深まっている。
 ・小集団の発表が良かった。聞いてほしい・話したいという思いをもって相手に伝えていた。
 ・時間が余ったところでも、「もっと質問ない？」と聞き手がいた。
 ・ふれあいホールで離れて話していたので、自分のグループの話に集中できた。場の設定良好。
 ・BWHで質問ができていた。

【良かった点】
 ・反応はよかったが、発表者が話し切るまでは話を聞かないように聞ける良い。
 ・質問カードがあることで、それしか使わなかった子もいるから、カードがないことで自分の言葉で説明できるのは、質問に困った子には助かっていい子もいる。
 ・ワークシートに説明は一言が多かった。
 ・質問をしやすくなる設定した？
 ・話し手は立てて話すことで、話し手が分かりやすくなる。

あったらいいなをきこうはなそう

ひびき合い

10 / 31 あったらいいな、こんなもの

話し手→経験を踏まえながら話す姿
 聞き手→自分の経験と重ねた感想を伝えながら、質問をしている姿。

【良かった点】
 ・発表や発表をできているグループが多かった。グループ分けで、発表の順番を分けてお金の話、いろいろな意見が出てきた。
 ・「自分だったらこうだった」と自分の経験と相手の意見を比較していた。
 ・ヒントカードを活用している班があった。
 ・タイマーのところに一人目、二人目などの表示があつてわかりやすい

【良かった点】
 ・自分の経験から、質問や感想が書くと更に良い。
 ・課題別に班を分けて似たものを集めたので、同じものでも経験が違つたから考えが異なることに着目できればさらに良い。
 ・感想を言葉にするには、どうしてこの作品を作ったのかという理由を説明に入れたら書き合うかも。
 ・ふせんは、自分が考えたものを書く。
 ・質問カードに書かれた質問をかけるようにしておくことで、行儀には答えられないようにする。
 ・質問の内容は性能に関するのではなく、作った理由に焦点が当たると良い。

あったらいいなをきこうはなそう

ひびき合い

10/31 あったらいいな、こんなもの

発表会に向けて、「あったらいいな」をくわしくするための、しつもんをしよう。

【良かった点】
 ・グループワークの効果もあり、児童たちだけで上手に話し合いが行えてる班が多かった。
 ・質問、ヒントカードの支援により児童が自信をもって発表できていた。
 ・ふれあいホールの活用が話し合いで使い慣れていない様子もあつたが、隣の班の音が聞こえにくいという良さもあつた。時間内でたくさん質問をしたり答えたりする楽しさを感じている児童が多い。

【良かった点】
 ・オープン教室を活用して、班の距離を確保する工夫でも良かったかもしれない。
 ・自分の欲しいもの、なんのために欲しいのかどんなものなのかを言葉で伝えることができ、言葉で質問をすることができる。
 ・自分の生活に基づいたものが考えられている子がたくさんいるとよい。相手が共感をもてないと質問もつにくい。
 ・実生活(身近な)の関り感をもたせたいと、絵に説明を加えて書くのがわかりやすい。

友だちのあったらいいものをきいてみよう

ひびき合い

10/31 あったらいいな、こんなもの

友達のあったらいいものに質問しよう。

今日もらった皆さんの質問に答えられるよう(切実さ)
 次回はより詳しい紹介文にする姿

【良かった点】
 ・はじめに確認することで今日やること明確になった。
 ・大きいタイマー、付箋の順番で話す順番がわかりやすかった。
 ・やることがわかりやすい工夫(質問の例)
 ・質問中、「自分ごととして答えていた。(おれだつたら)子ども一人ひとりに関わり深まった声かけ

【良かった点】
 ・時間が余ってしまう班があった。
 ・発表の仕方考えられるといい。
 ・質問の仕方(切実さ)
 ・切実さ(これやりたい！)

【良かった点】
 ・「前時に不完全なものを教師から提示し、「質問したい」という気持ちをも高める。
 ・話し合いの子同士でグループを分けても良かった。
 ・時間を少し足りなくらいに設定する。
 ・1人モデルを立ててその人から焦点化
 ・問いかけ
 ・質問に全部答えられる？
 ・もっと新しい質問考えられそう？

友だちのあったらいいものをきいてみよう

ひびき合い

10/31 あいての考えを引き出すしつもんをしよう

あったらいいものをくわしくきこう

お互いの道具を話したり詳しく聴いたりしてよりよい考えをもつ姿

【良かった点】
 ・質問の仕方が提示してあり、よかった。
 ・手元にもあつてよかった。
 ・早くに終わっているグループがあつた。
 ・グループのメンバーが考えられていた。
 ・一生懸命になって聴く姿があつた。
 ・今まで本人が考えていなかった質問をしている子がたくさんいた。

【良かった点】
 ・時間を短めに設定し、最後に足りない部分を質問し合う時間があるように。
 ・質問したことを個人で質問リストにチェックできるようにする。
 ・良いと思ったことも感想として言葉で書くと次につながりそう。

友だちのあったらいいものをきいてみよう

ひびき合い